



# 人間の義理を立てず 神一条の理を立てる

9月大教会教会長会議  
立教187年9月22日  
大教会長 片山幹太

# 本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
本島通信編集室 R.241025-0927-11  
奈良県天理市指柳町270-1  
本島詰所 〒632-0093  
電話 0743-63-1571 (呼)  
<https://www.honjima.com>  
Email: webmaster@honjima.com  
大教会 朝夕おつとめ時間  
【10月1日～10月15日】  
朝づとめ 午前6時30分  
夕づとめ 午後6時30分  
【10月16日～10月31日】  
朝づとめ 午前6時45分  
夕づとめ 午後6時15分

来月(10月22日)は、世話人宮森与一郎先生が大教会へお入り込み下さいます。

そこで昨年の大教会秋季大祭で宮森先生から頂いた神殿講話の最初の部分を読み返したいと思っておりますので、聞いて下さい。大事な心得の部分をお話し下さっています。

〔以下、本島通信第962号より転載〕

まだ私が30代に入った頃であります。当時青年会本部の副委員長を務めておりました。そういう関係で、俊次先生にお願いしたいことがあって、本島詰所の会長宅に訪ねて行ったことがあります。

その当時、既によ志多会長様の時代でありました。

何をお願いに行ったかと言いますと、天理高校の北寮幹事を本島から一人出して欲しいというお願いです。本来ですと大教会長様をお願いに上がって、そして許可を得て事を運

ぶのですが、ちょっと急を要していたのであります。早く人選を決めて青年会長様にご報告しなければならぬ、というような時でした。

大教会長様は大教会へ帰っておられる。どうしよう、という事になって、俊次先生にお願いに行こうと思

い、行ったのであります。

俊次先生はお願いの筋について、しばらく黙って聞いて下さいました。そして「分かった。そのことは上手く事が運ぶように、大教会長にも私からお願ひして、必ずさせてもらおう」と快諾を下さったのであります。

そしてその時、一言だけ仰つたのであります。それが今でもずっと心に残っております。その一言は「事務屋になつたらあかんよ」でした。

その当時、俊次先生はもう本部長であります。こちらはまだぺいぺいの青年であります。お願いの筋に上がって、本来ならばなかなかお願いできないような、本部長と青年という立場でありましたが、快諾を下さった上で、「事務屋になつたらあかんよ」と、今さらながら思い出

しますが、どういふことなのか。その当時は分かりませんでした。今に

なつて思ひますと、おさしづに

「人間の義理は要らん。人間の義理思えば神の道の理を欠くで」

(明治21年10月5日)

とあります。また

「神の道一つも立てず、あつちの顔を眺め、こつちの顔を眺め、人間の義理を立てる。神の道とは言えようまい」(明治27年4月3日)

その当時、まだ30代そこそこの私にとつてみれば、こうすればこうなると、計算を立てます。本部長先生、俊次先生にお願いすればきつと上手く行く。事をうまく運ぼうと、策略を考え、そういう思案を巡らす。これを人間の義理を立ててしまふ姿だと、こういう意味だと思つたのであります。人間思案というものだと思つたのであります。

そうではなく、神一条の姿。神様の思いを一番に立てた行いが出来ているかどうか、ということを俊次先生は「事務屋になつたらあかんよ」という一言で教えて下されたのだと思つたのであります。

教祖が貧のどん底の中、やっと手にされた四合の米を、たまたま訪ねて来た者に惜しげもなくお与えに

なったという話があります。

この米があつたらどうだろうかとか、  
教祖にはそういう打算がなかつたの  
であります。人間に知恵力でこうす  
ればこうなる、ああすればああな  
る、これを貯めておけば将来こうな  
る、という思案を人間思案であると  
思うのであります。

昨日は俊次先生の音声を視聴しな  
がら、この神殿がどうやって出来た  
のか、初めて見ました。人間思案の  
ない姿、神一条の姿で通り切られた  
本島の先人たちの素晴らしい信仰を、  
初めて昨日知ることができて本当に  
良かったと思っております。それに  
続く本島の皆様方も、きつと先人に  
負けないような、そういう神一条の  
姿を通じて下されていると、昨日は  
ちよつと安心しました。

〔以上、本島通信第962号より転載〕

改めまして年祭活動の三年千日、  
第2年目があと3ヶ月ほどで終わら  
うとしております。

おちばからいろんな声を頂き、そ  
れぞれの心定めを熱心に実行してい  
ることと思います。

私たちは、親神様のお働きを頂い  
てなんぼである、ということをお肝に

## 本島大教会 神殿講話 (要旨)

〔立教187年9月22日〕

# 次の世代と共に、一日一日、 一歩一歩、道を歩む

大教会准役員

ながおけいこ  
長尾啓子

只今は9月の月次祭を大教会長様  
を芯に、おつとめを陽気に勤めさせ  
て頂きましたことを心からお慶び申

銘じて、心配事は神様に取って頂  
き、心は明るく人たすけに一生懸  
命努めさせて頂きたいと思ひます。

おふでさきに、  
いかほどにもつかしよふにをも  
たとへ 月日ひきうけあちな  
いぞや(第十一号)

親神様が「引き受ける」と仰せ下  
さっています。私たちは陽気ぐら

し世界実現を目指して、にをいが  
け・おたすけに歩ませて頂きたい  
と、強く思う次第でございます。

ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

し上げます。

このたびは本部登殿参列に帰参さ  
せて頂き、合わせて娘二人の家族と  
一緒に9人で帰らせて頂きました。

本日は神殿講話の御命を頂きまし  
たので、しばらくの間お付き合ひ下  
さいますようお願い申し上げます。

論達第4号において真柱様は、

「よ、ふ、ぼ、く、一人ひとり、  
教祖の  
道具衆としての自覚を高め、仕

切つて成人の歩みを進めることが、  
教祖百年祭を勤める意義である。」  
とお示し下さっています。

私の教会では年祭活動に入り、朝  
づとめのときに教典、教祖伝を少し  
ずつ読み進め、現在は教祖伝逸話篇  
を拝読して学びを深めています。

私のお預かりする教会は今年で創

立95年を迎えました。

初めは1924年(昭和4年)タコ  
マ教会として設立され、戦争によ  
り一時は事情教会となりましたが、  
1953年(昭和28年)辻本エイ(旧  
姓柴田)先生が3代会長となられて  
後は、タコマ、シアトル、そしてカ  
ナダのバンクーバー、トロントと各  
地にたくさんの方をおたすけされて  
お道に導かれました。

そして1973年(昭和48年)辻  
本エイ先生が78歳でお出直しの後、  
辻本徳太郎先生が4代会長となり、  
1981年(昭和56年)お出直しの後  
は、再び教会長不在となり教会につ  
ながるよう、ぼくの皆さまが守ってい  
らっしゃる状態でした。

そこに私の夫である長尾幸生が  
大教会長様から御命を頂き、5代  
会長を後継する運びとなりました。  
1984年(昭和59年)10月のお運び  
で、教祖百年祭まで1年3ヶ月のと  
きでした。

このとき教会がタコマ市からシア  
トル市へ移転することになりました  
ので、名称を「シートタック教会」と改称  
し、私は会長とともに3歳と1歳の幼  
い子連れて渡米しました。アメリカ  
では3人目の子も授かりました。





子供達はアメリカで教育を受けながら、日本語の習得にも励み、教会行事や鼓笛隊活動、おちばがえり等も熱心に参加してくれました。

渡米して16年後の2000年(平成12年)、タコマ市へほど近い街に移転することになり、6月に移転建築鎮座奉告祭を勤めさせて頂きました。その後、会長は身上がちとなり、親神様のお手引きやお手入れを通して心の成人に努めさせて頂く中、10年後の2010年(平成22年)6月1日、63歳で出直しました。

私は心の整理がつかない中、成つて来る理の中に親神様の思召しを求め、6代会長に就任して今日に至っております。

夫の出直しから14年が経ち、子供

達はそれぞれ結婚して家庭を築き、孫にも恵まれ、仲良く家族ぐるみでの信仰をしてきている姿に有難い思いでいっぱいです。

私は教会長になって2年後、突然身体に痛みが現れ、命の危険にさらされました。おさづけを取り次いで頂いたおかげで、親神様に救って頂き、一生忘れることができないふしをお見せいただきました。

後に病名は線維筋痛症(せんいきんつうしょう)と分かりました。

その時、私の産みの母親は私が生後2歳5ヶ月のときに生直していることを思い、お守りいただけただ喜びとともに、いんねんの自覚をしつかり持たせて頂くことができました。

現在では激しかった痛みや咳も減り、有難い日々です。

天理教教祖伝逸話篇一四七「本当のたすかり」では、山本与平妻いさは、ふしぎなたすけを頂いて、足腰がブキブキと音を立てて立ち上がり、年来の足の悩みをすつきりご守護頂いたものの、手が少し震えて、なかなかよくなる。そこで教祖にお願いすると、

「息をかけるは、いと易い事やが、あんたは、足を救って頂いたのや

から、手の少しふるえるぐらいは、何も差し支えはしない。すつきり救ってもらうよりは、少しぐらい残っている方が、前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりや

で。人、皆、すつきり救かる事ばかり願うが、真実救かる理が大事やで。息をかける代わりに、この本を貸してやる。これを写してもろて、たえず読むのやで。」

と、お諭し下されて、おふでさき十七号全冊をお貸し下された。この時以来、手のふるえは、一寸も苦にならないようになった。

私はこの逸話から、人様のおたすけに努めることが真実たすかる理であると立案いたしました。

私はアメリカに来て40年を迎えます。さまざまな人のそれぞれの人生と出会いながら、ふしをお見せ頂きながらも、おたすけを通して笑顔を大切に、人のお話を傾聴し寄り添うことが何より大事であることを学びました。

教会活動も、ここ数年で次世代の若者を中心に、皆で話し合いながら歩ませて頂いている今日です。

話は変わりますが、コロナ禍の最中、親神様・教祖のお連れ通りを実感したお話を3つさせて頂きます。

2021年、97歳の女性信者さんでとてもお元気だった方が、施設で具合が悪くなり、病院に運ばれたところコロナに感染していることが分かりました。

病院では面会が許されず、教会で毎日お願いづとめを勤めさせて頂きました。しかし入院3日目でお出直しとなり、葬儀場に運ばれましたが、感染力の強い時期でしたので、そこでも面会が許されませんでした。そこを娘が葬儀社と掛け合ってくれて、2週間後、時間制限の中で最期のお別れをすることが許され、御遺骸(みなぎがら)にみたまうつしをさせて頂くことができました。

それはご本人の長年の信仰の賜物でしょう。親神様・教祖に深くお礼を申し上げます。

次に、独居生活をされている82歳の女性信者さんは、いつも自宅で育てられた野菜を教会に届けてくださり、人のためよく尽くされる方でした。

ところがコロナ禍から人と会うことが減り、好きな畑仕事も出来なく

なり、家の中に閉じこもる生活に一変しました。

私は電話したり、家を訪ねたりしておりました。年の瀬の迫る12月27日に部内の布教所長さんと訪ねたときです。玄関ドアは開かず、電話してもつながりませんので、私は気になってベッドルームの窓を叩いて彼女の名前を大声で呼びました。

すると彼女の声が聞こえたので、私は急ぎ救急車を呼び、駆けつけた救急隊員が小さな窓を外して中に侵入したところ、ベッドの横で倒れているのが発見されました。数日間、動けずその状態であったようでした。運ばれた病院の医師によると、脳梗塞を何度かしていることが分かりました。

私は教会ではお願いごとめ、病院ではおさづけを取り次がせて頂く中、治療もかなわず3週間後お直しになりました。

彼女はよく、自分の家族は孤独死だったり変死する人が多いことを語っていました。そのことを思うと、私達が訪ねなければ、床に倒れたまま誰もいないところとんでもないことになっていたと思います。

まだまだ御用の上にも元気で通

り頂きたい方でしたが、看護の整った暖かいベッドの上で、眠ったままたくさんの方と会える時間を神様からお与え頂き、苦しむことなくお出直され、みたまうつしをさせて頂くことができました。

次に自宅に神実様を祀り、講社祭も勤められていた90代の信者さんは、怪我から施設に入られることになり、施設は狭い個室でしたが神実様をお遷しさせて頂きました。その後すぐコロナ禍が始まり、面会ができなくなりしました。

長い期間を経て、ようやく施設の部屋に入ることができたとき、「神様を祀らせて頂き、毎日神様に手を合わせ、お見守り頂いていることがありがたかった」と言われている姿に私は胸がいっぱいになりました。

この3つは、コロナ禍の中で忘れられない出来事で、どんな中もおたすけの心で通らせて頂くことができる経験となりました。

40年前、アメリカへ行く前日に当時の片山昇4代会長様から私達夫婦にお話し下さったことが2つありました。

まず神様を守り切ること。もう一

つは教会につながる方や身寄りのない方の最期をしっかりと看取ってあげることです。

当時、20代の私にとって2つの言葉は衝撃的でした。

しかし10年、20年と通らせて頂くうちに、その言葉が心に治まり、今では昇会長様の親心を強く感じているところだ。

教祖140年祭まで残すところ1年3ヶ月となりました。

日々の生活の中で、身近な所から自分にできることを覚悟をもってコツコツと勤めさせて頂いて居ります。それはおつとめを通して人の救かりを願うことでもあります。

今年に入り、いろいろな方のご参拝や、身上の方のお願いごとめ、おたすけと、親神様から実動のお働きをお与え頂いています。

年祭活動の自覚を高め、若い世代と共に歩ませて頂きながら、頑張りたいと思います。

以前、宮森与一郎先生のご講話で、「分からない人に分かるまで伝える。連れて通る。そのための苦勞をさせて頂くことが、教祖が通られたひながたの道である」という旨のお話を頂きました。

そして諭達の最後には、「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通る、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一步一步の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」とあります。

私共夫婦2人から始まった海外布教の道も、今は家族14人となりました。

娘たち家族はそれぞれ講社を祀り、息子家族は教会生活を共にしてくれています。本当にありがたいことです。一代でインターナショナル・ファミリーになっています。

次の世代と共に教会につながる方々と、ひながたを目標に、楽しみ多い道として、親孝心を忘れずにおちばに心をつないで、おつとめにおたすけに、一日一日、一步一步、歩ませて頂きたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)





# 九月月次祭 祭典役割

**献饗長** 岩橋竜造  
**伝 供** 向所隆文・永島宗行・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・雲庵春彦・片山直明・茶屋原良昭・横山正次・長尾海和・文岡邦人・窪田卓夫・吉田知彦・岩橋秀一・香川勝巳・鎌田典夫・位下道治・滑川善久  
 宮路和徳・村田輝夫・古井信・上山康雄・川村吉夫・溝口晋太郎・長濱充憲・木村太喜  
**雅楽奉仕者** 文岡育則・池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・香川靖幸・奥村由多加(順不同)

神殿講話	胡三味線 弓線	小 琴 鼓	太 鼓 ね	拍子木 拍子	ちやんぼん 笛	てをどり	地 方	祭主	大教会長
								指方	平井真治郎
								座りづとめ	鷹者
長尾啓子	片山孝代 片山榮	池田さわみ 永島宗行	老木邦光 岡崎八十則	岩橋慶三 岡崎八十則	雲庵道延 岩橋慶三	片山やすす 片山澄子	大教会長 片山 勲	老木邦光	高垣光治
								てをどり前半	高島栄造
								てをどり後半	
	永山みすゞ 雲庵まち子	吉田晴雄 向所暉美子	永山晴明 古井 信	原口 実 田中丸勝也	篠原丕王 宮路和徳	奥村龍夫 横山富明	後藤正治 吉田知彦	横山正次 長尾海和	長尾海和 長濱充憲
	肥後良子 梅木澄代	窪田卓夫 高垣洋子				長尾善久 雲庵瑞穂	伊東康成 滑川善久	文岡邦人	文岡邦人

## 九月月次祭祭文

立教百八十七年九月二十一日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創め下され昼夜を分かつお見守りお育て頂き時に臨み旬に應じてだんだんのお仕込みを賜わり幾重の道すがらも恙なくお連れ通り下さいます御高恩の程は誠に有難く勿体ない限りでございませう

私共は届かぬながらもひたすら御恩報じを念じてたすけ一条の上にとめさせて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会の九月の月次祭を執り行う定めの日柄を迎えましたので只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同心を澄ませ一つ心に座りづとめてをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きませう

御前には未だ衰えぬ猛暑の中をも厭わず今日を楽しみに帰り集いました道の子供達が日頃賜る厚い親心と御恵みにお継りする真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

私共はこの月を「全教布教推進月間」としておちばよりおうち出し頂いております布教活動の充実に努めさせて頂いておりますが加えて従来から取り組んでおります「にをいがけ名簿」と「おさづけ取り次ぎ」の報告に全教会提出を目指しております

尚またこの月二十八日から三十日までの三日間は「全教一斉にをいがけデー」とお定め頂いておりますので私共は全教会が挙つて一人でも多くの人々に親の思いを伝え思召にお応えさせて頂けるよう努めさせて頂く所存でございませう

更には又本教のよふばく養成の要であります「修養科」が来る十月で丁度一千期を迎えます年祭活動成人の旬に相応しく記念となる「修養科生」の御守護に努めさせて頂く所存でございませう

何卒この上共に変わらぬ親心を以てお導き下さり時句の歩み恙なく進めさせて頂き一日も早く思召下さる陽気ぐらしの世の状にお導き下さいますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

## 入社祭

(立教187年9月22日)

▼シートツク△レリー・アサミ・パウレス  
 △ベネロパ・ジュン・パウレス△レリカ・マヤ・サトウ△エマ・サチ・サトウ【計4名】

9月22日(日)  
 【香川県丸亀市】

天候 大雨時々曇  
 最低気温 21.2℃  
 最高気温 30.9℃  
 平均気圧 1007.3 hPa  
 平均湿度 88%  
 平均風速 3.0 m/s  
 日照時間 0.0 時間  
 降水量 78.5 mm  
 ※ 降水量は一日の総雨量







大教会表参道にて (2024.9.23)

事情はいづ

立教187年9月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教187年8月分)

實峰 山内彰子  
エヌ・シー 内田三養

【計2名】

修養科第997期修了

(立教187年9月27日修了)

本中国 篠原慶士  
サウザンパシフィック  
ゼファー・ナタリー・スペンサー

【計2名】

をびや許し

(立教187年8月分)

肥後八峰 三ツ井美理子  
銀峰 新谷美遊

【計2名】

証拠守り下附

(立教187年8月分)

本恵1、エヌ・シー1

【計2名】

女子青年づとめ

片山香葉子さん(本島)、佐藤祥子さん(本太)、9月22日より大教会女子青年づとめです。

布教部報告(9月分) 数字は本年の提出回数です

統計 (8月1日~31日)

にをいがけ名簿提出教会 (9月)		
本島	3	
樺太	9	
本倉岡	8	
本樺	9	
本室	6	
本都	8	
本京	9	
本東	5	
本草	9	
本護	6	
本三	7	
本恵	9	
本恵明	9	
本静濱	8	
本静森	7	
本日米	9	
本浜	7	
本米	7	
本米臺	1	
本米里	9	
本米浜	7	
本千代	9	
本千治	7	
本千恵	3	
本平濱	2	
本新田	9	
赤峰	9	
雅峰	9	
神峰	4	
倉峰	9	
大雄峰	6	
雄福峰	9	
雄山峰	5	
栄森峰	7	
栄星峰	7	
栄東峰	8	
霊峰	8	
實峰	8	
大隅聖峰	8	
大松峰	6	
大駿峰	8	
別峰	7	
大英峰	9	
文峰	8	
肥後八峰	9	
新信峰	8	
鶴峰	8	
都峰	8	
仙峰	9	
ラナイ	2	
S.P.	5	
ハリウッド	8	
計	74	647名

おさづけ取次報告教会 (9月)		
本島	9	
樺太	9	
本倉岡	8	
本樺	9	
本室	6	
本都	7	
本京	9	
本東	5	
本草	9	
本護	5	
本三	7	
本恵	9	
本恵山	7	
本恵明	9	
本静濱	8	
本日米	9	
本浜	8	
本米	9	
本米臺	1	
本米里	9	
本米浜	9	
本千代	9	
本千賀	7	
本千治	6	
本千恵	3	
本攝	9	
津	7	
泉	9	
本太	9	
本萩	9	
本岡	2	
本浦	1	
安藝本中	8	
本清保	1	
本備前	9	
本迪	6	
本府中	8	
沖浦	9	
本亀	6	
本清水	7	
崇徳	9	
与島	7	
本廣	2	
本勇	6	
本高	9	
本宣道	1	
本九	9	
本小倉	4	
本陽山	9	
本肥港	9	
本新田	8	
計	76	1,736回

教会名	初席	中席	おさづけ	修養科	教人講習	検定講習
本島		1				
樺太		1				
本都		1				
本邦	1					
本小倉	1	2				
雅倉	1					
倉峰		3				
雄福	2	2				
實峰			1			
大隅聖		1				
別峰		1				
文峰				1		
エヌ・シー			1			
合計	5	12	2	1	-	-



【教会の掲示版】  
本島ドットコムよりダウンロードできます



### 世話人 宮森与一郎先生ご巡教

【本島大教会】

- ご巡教：10月22日(火)秋季大祭
- おてなoshi：10月21日(月) 17:00より

### 大裏地区稲刈りひのきしん

【伏せ込みひのきしん係】

- 日時：10月24日(木)午前9時より、ひのきしん終了まで
- 送迎：8時50分、詰所玄関前出発
- 場所：大裏地区(天理市豊田町)
- 服装：長袖、長ズボン、帽子、タオル、軍手、長靴または靴  
※汚れても良い服装
- 作業内容：稲刈り等
- 雨天中止
- 参加申込：10月22日まで大教会事務所へ教会名とお名前をご連絡ください。(本島ドットコムから参加申込み用紙をダウンロードできます)
- 詰所の宿泊食事は、各自詰所へお申込みください
- 担当者：岡崎八十則、永島宗行

### 第98回天理教青年会総会

【青年会本部】

- 式典：10月27日(日)午前10時
- 会場：本部中庭  
〈本島分会スケジュール〉
- 日程：10月26日(土) 13:00 写真の間集合、お話しフェス参加(第百母屋)、17:00 詰所出発、17:45 本部夕づとめ参拝、その後前夜祭に参加(東西泉水プール前広場)  
10月27日(日) 8:00 受付、8:30 写真の間集合、記念撮影、詰所出発、10:00 総会、総会后解散
- 参加費：500円

### 能登半島ひのきしん

【青年会本島分会】

- 能登半島地震被災地ひのきしん(青年会)
- 日程：10月12日(土) 21:00 詰所出発、13日(日)終日活動 & 宿泊、14日(月) 17:00 頃詰所着
  - 参加費：1,000円(食事は自己負担)
  - 問合せ先：伊東賢太郎

<https://www.honjima.com/>

↓ は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。  
トップページ>各種ダウンロード

### 10月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

- 〈大教会・食堂ひのきしん〉
- 期間：10月21日～22日
- 派遣教会：本九
- 〈秋季大祭帰参者世話取りひのきしん〉
- 期間：10月24日20:00～27日9:00
- 派遣教会：本室①、本京①、本攝①、本岡①、安藝本中①、沖浦①、本廣①、本肥①、赤峰②

本島通信 WEB 版は本島ドットコムより申込み承ります。印刷物よりお手元に速く届き、写真がカラーで鮮明です。

立教187年

# ようぼく研修会

にをいがけ・おたすけの一助となる研修会です。

日時：**10月25日(金)**  
**18:30~20:00**

会場：本島詰所4階講堂

対象：ようぼく、教祖年祭活動を歩む者

受講御供：**500円** (但し修養科生、学生はなし)

講師：**茶木谷吉信**先生  
ちゃきたによしのぶ

講師紹介  
ちゃきたに・よしのぶ  
昭和35(1960)年 熊本県菊池市生まれ  
昭和58(1983)年 熊本大学文学部哲学科卒  
昭和59(1984)年 天理教正代分教会長  
平成17(2005)年 熊本刑務所教誨師  
平成25(2013)年 玉名市主任児童委員  
認定心理士  
不登校支援相談員  
現在、修養科第999期一期講師

YouTube 陽気チャンネルの一部です  
茶木谷吉信

「八つのほこり」を科学する 27:34

目に見えん徳 目に見える徳 見えん徳とは何か 18:05

天理教祖伝 逸話篇172 「前生のさんげ」をめぐる謎 24:01

天理教逸話篇75 「これが天理や」 力比べの本当の意味 28:46

世界たすけに活かすおやさまご逸話  
茶木谷吉信著  
養徳社、Amazonにて発売  
税込1,540円 304頁  
2019.5.26 発行

大教会布教部では、「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」全教会提出達成を目指しています。  
にをいがけ・おたすけは、一人ひとりが心定め、日常生活で実行しよう。

主催：本島大教会布教部